



部下をどう働かせるのかが問われて居る

二六歳の若い医師が月間時間外労働二〇七時間の末、自殺。極度の長時間労働が原因として労災認定された。

ただ教科書にある事を覚えさせる教育。これでは考える力はない。

仕事に就くと

これは病院がこの医師の業務の実態を把握せず、彼がどんなに変な思いをしているか、考えようとしなかった結果だろう。

こうした教育を受けた結果、上の云うままに働く事に。

経営者としては大変都合の良い話だ。

学校では

学校で「優等生」と云われた子は、先生の云う事を良く聞き、その通りにする。歴史の授業では何年に何があったか、何でも覚える。

大化の改新では「中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒し天皇中心の政治に」と教科書通りに覚える。

「どうして天皇中心の政治にしたのか？中臣と蘇我の勢力争いでは？」等と、生徒に問いかける授業は少ない。

日本社会全体で考えて見ると、そういう幹部は複雑な社会で、何を今すべきか、見極められない。

これは日本の将来が危うい。

云われた通りにする教育から自ら考える教育に変えて行く必要があると思う。

あなたは どう思われますか？

梅池ヒュツテ

長野県北安曇郡小谷村千国 梅池自然園

二〇二三年十月



十月の始め、長野県北部の小谷村の友人を訪れた。十月なのに未だ夏のような気候。涼を求め、ロープウェイに乗り梅池自然園を訪れた。流石に標高一八四五m。既に白樺の紅葉は過ぎ、葉は皆落ちて、白い幹が美しい。ところどころに、真っ赤なナナカマドの紅葉が見られた。

コロナ禍が収まり、ようやく山に行き、思い切り自然を楽しみたいと誰もが思う。ウィークデーでも自然園を沢山の人が訪れていた。

このスケッチをしたのは十月。二ヶ月経った今、友から「梅池スキー場の上部はリフトも動き滑れるようになった」「シーズン券を買った」との便り。

この絵の辺りは今頃真っ白だろう。また、滑りたいと思う。

